

特59

931

賤ヶ嶽大合戦全







紫野大
德寺燒
香





福島

と大
戦又

將監

為

小左

并

○郎次郎討

れて死を又越
前勢より連島
傳藏等我討とらん



拜郷五左工門久盛

中川清秀
突てくる

清秀の傳藏と切て
落せ下田も一カ不切
り下られ竹島等ついで
一度とつと因次郎



福島市松止則

刀一にて落す伊平太六



逃んとせし清秀
追ひ切殺す佐久

同ハ斯と見より
鏡の棒を打あり

清秀めりて打て
れが双方手を盡し

くそりやち佐久

宿屋六郎左門 同

郎等進藤無市

中川の
の



口より鎧とあげ
つと清秀切えら

へんとせし佐

久向う打込鏡の

棒を肩先とさ

れ清秀馬より

とりと落すと進

藤押へて清秀の首と

取る中川平右衛門の終ふ

落のびけり佐久向ハ中川

清秀と打取す首と

持せ勝家へ送り勝利の吉事と言のべ其上

伊木半七定兼



賤ヶ岳の由と注
 進けん
 勝家ハ急ぎ

石川兵助



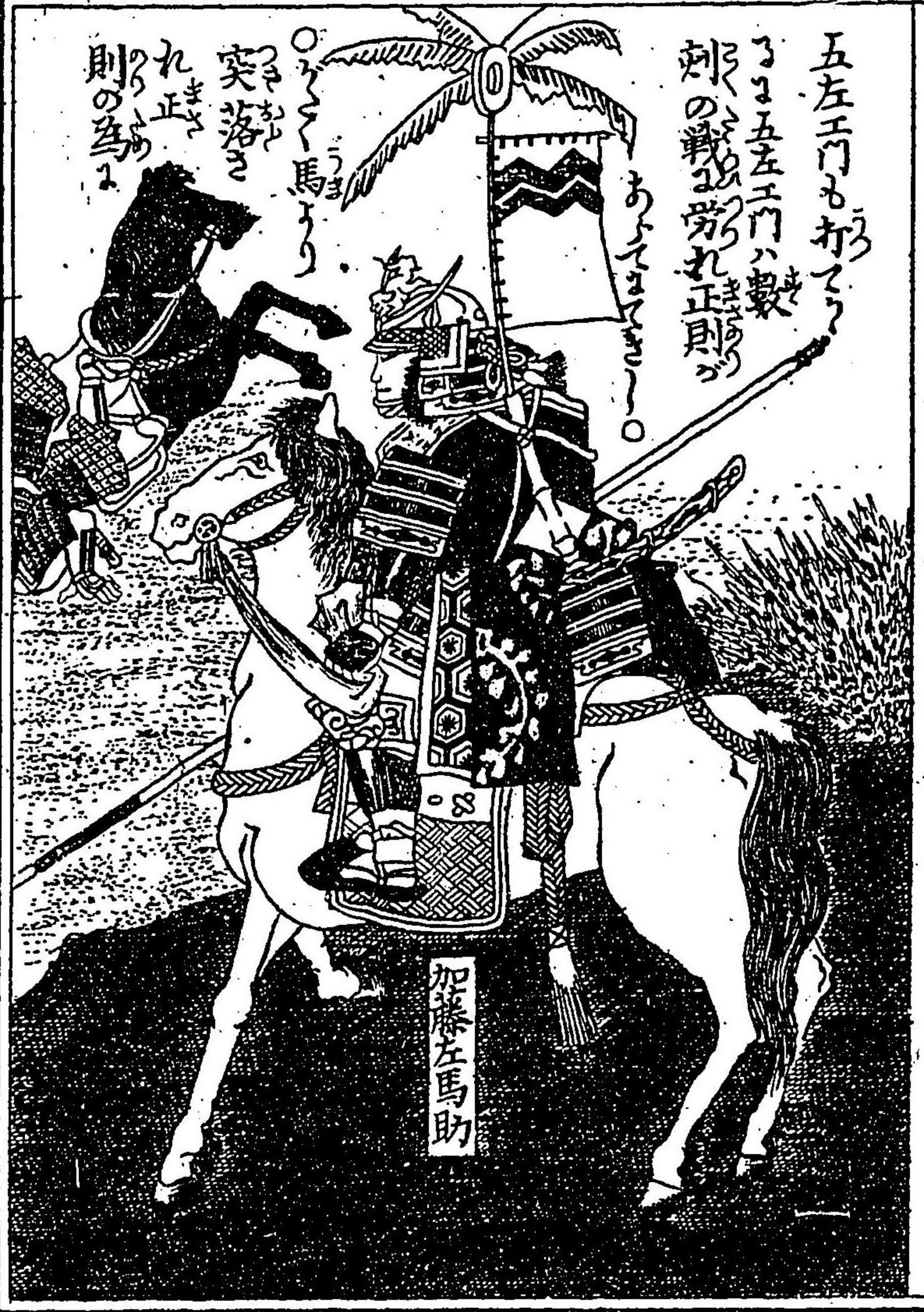
引上ルハと言遣ハけ
 然るも其夜子の
 郎秀吉着陣
 聖朝攻掛れハ
 北国勢忽
 ち敗軍と
 此時拜
 郷宿屋
 の兩人味方
 放れてまけり

相屋内膳

羽芝家
 又の勇士福島市松正則
 と名乗突入り

五左門も打つ
るは五左門の敷
郊の戦は勇れ正則

突落さ
れ正
則の為



加藤左馬助



討死せり
爰は羽柴方
の標井清一
の越前方の
強將宿
屋七郎
左
門は 平野遠江守
打つくり互は打合
けら宿屋の戦ひ
芳れしや佐吉が為は打れ死
又羽柴方の勇士伊木半七安定

越前 ぜんと渡り合敵と数多討たり
伊木 吉 佐 櫻井
半七石 川兵助
の三あ
り太刀と
り北国の勇将



後藤又兵衛

浅井吉兵
エ六味方の
敗軍を助て
羽柴方の加藤孫六よ矢
とを拒せし加藤の身ごころ

浅井吉兵



佐久間玄蕃



これをのぞいた吉兵衛射をんとりて
 矢つや二の矢を射掛れたる孫六十文
 字の鎗をこれを受止終る
 吉兵衛討とりける
 柴田勝家の織田信
 長ふ仕へ第一の老臣
 り岩倉攻め堀
 尾忠左エ門を討取
 桶狭間の一戦を
 原忠春を討とり後北
 州七ヶ國藩鎮とあり秀吉と
 不和より賤ヶ嶽の一戦

照阪甚内



味方悉く利と失ひ
 救目
 へ引る
 自後
 て相

片桐勝元ハ逃れ敵と追うけ討
取るところ越前ノ勇士安彦弥五
右二門勝元と見く馬とくえりて味
方と助け志をらく戦ひり安○

片桐勝元



○彦協ト
とや思ひけん
逃出まを追うけ
北國の勇士豊島
以兵衛長井五郎左門
安彦と救ひ三人
と相手小突戦
あしけるよ安
彦木の根は川つさ
落馬せし愛と三人等
突つらぬき猶も
敵地へまきみけり





加藤清正



加藤清正の
敵と遺立く首と取
ては又加藤清正の
是を
折ら山路正國
組を
と出合はれ清正鎧と捨
ひよ加藤の境つドの枝まうり忍の緒切れて

を以て攻立々進ハ城兵もあを
せんど防死戦みと雖ども
勢あを難々進ハ勝家

今ハ是まをありや
城火をくけ腹十
文字あめき切り
中村文荷齋
ふいやくあを果め

明治十九年五月四日御届
日本橋区吉川町五番地
兼出 次堤 吉兵衛



定價 貳錢

